

コヒゲシマビロウドコガネの分布について (兵庫県甲虫相資料・320)

高橋 寿郎

コヒゲシマビロウドコガネは、Lewisの第2回目の日本旅行(1880-1881)で得られた標本に基づいて、Lewis(1895)によって*Serica brevicornis*として記載されたものである。原記載に用いられた標本は、Hab. Nikko and Shinkano in July and Augustとある。

Brenske(1897)は、触角片状節が4節よりなることから、本種を*Microserica*属として扱った。

Arrow(1912)は、*Gastroserica herzi* Heydenの記載をした最後で、*herzi* Heyden, *higonia* Lewis, *brevicornis* Lewisはすべて*Gastroserica*属に扱うべきであるとしている。

新島・木下(1923)では、標本がなかったのか*Microserica* (*Serica*) *brevicornis* Lewisとして、産地Nikko, Shinano(間違っている)で、和名も記載もなく収録されている。

加藤(1935)の目録では、*Microserica brevicornis* Lewis(本州)と和名なしで収録されている。

澤田(1937)は、初めて日本文による記載を行うと同時に♂交尾器を図示した。また原記載産地以外の産地として、奈良県吉野郡下北山村前鬼(澤田採集)、高知県土佐郡大川村(大久保一治採集)を示した。

三輪・中條(1939)の目録では、*Gastroserica brevicornis*の学名で、分布は日本(本州、四国)となっている。

以上が本種についての戦前の主な文献と考えられる。戦前は全く図鑑類には出ておらず、一般に知られていなかったと思われ、この点を気にした澤田(1953)は、四国で多く採集されたということを紹介し、図示して解説を行っている。

戦後ではほとんどの図鑑類に図説されているので、このコガネムシがどのようなものかは一応知られている。どのように記録があるのか手許の文献に眼を通して見たが、意外と記録が多くないように思われた。ずっと北の方から眺めてみる。

本種は北海道には分布していないようで、青森県の記録も見ることができなかった。宮城県からは渡辺(1989)の羽沢峠(登米町)、柳瀬の記録がある。

新潟県からはEchigo: Kurokawa(中根・馬場, 1960)、

石川県からは珠洲市(高羽, 1992)の記録がある。

野村(1973)は、栃木県Nikko(原産地)、群馬県Mikabo, Tanigawadake(ここにShinkanoを入れているが、この地名は岐阜県であり間違っている)、東京Okutama, Mt. Takaoとあり、長野県Kashio, 静岡県Odaru sha, Sumatakyoをあげている。神奈川県からは平野(1981)による小田原、箱根(少ない種である)の記録がある。

静岡県での記録は多比良(1989)があるが、産地名が入っていない。長野県では平沢(1986)により下伊那郡天龍村中井侍、阿南町村影、浪合村治部坂が記録されている。

本種が一番多く広く産すると思われる地域として、東海地域があげられる。愛知、岐阜それに接する福井県と三重県あたりの記録はかなりある。愛知県などでは灯火にわりと飛来するとの記録も見られるし、三重県の平倉演習林でも電灯に飛来することが古く知られており、筆者も同地で大倉正文氏が採集された1♂1♀(16-VII-1955)を頂いたことがある(この標本は現在、兵庫県立人と自然の博物館に保管)。この地域の記録を次に示してみる。

松野ほか(1990)は、以下の産地をあげている。東三河(茶臼山～面ノ木峠、豊根村各地、富山村漆島、設楽町裏谷、田口、鳳来町鳳来寺山、一宮町上長山)、西三河(豊田市六所山、足助町大多賀)。

大平(1979)によると三河地方の山間部でよく採集でき、段戸山や茶臼山では個体数も多く、灯火にもよく飛来するとある。

岐阜県では原産地の一つ新加納のほか、長谷川ほか(1989)による岐阜県塚がある。

福井県は佐々治・斉藤(1985)が、詳しく以下の産地を示している。大野市、下打波、白山、和泉村、早稲谷、三坂谷、小浜市、百里ヶ岳、多田庄村、頭巾山。

三重県では御座所岳(山下ほか, 1963)、平倉演習林(山下ほか, 1968)、桃の木、堂倉(山下ほか, 1972)、Yahatamura(野村, 1973)、南谷ブナ林、南谷ツガ林、父ヶ谷事業所(以上、父ヶ谷地域)(山下ほか, 1975)と記録が多い。この地域も個体数が多いのではないだろうか。

近畿地方では滋賀県、京都府、大阪府での記録が見られなかった。奈良県と和歌山県では記録がある。次に記してみる。

奈良県は古く澤田 (1937) による奈良県吉野郡で北山村前鬼の記録があり、伊賀 (1955) は奈良県折坂産をカラーで図説。野村 (1973) は、Ohdai, Shimokita-yama (Sawada), Nara を記録。山本 (1979) は、伯母子岳, Ob (Chufuku), Nabewaridani を記録している。

和歌山県からは的場 (1994) が、北山村、大塔山、八斗蒔、美山村を記録。

さて兵庫県であるが、同県に本種を産すると初めて記録したのは山本 (1962) の養父郡八鹿町妙見山である。高橋 (1977) は、遊摩正秀博士が1975年8月5日に養父郡大屋町田淵山で夜間採集をされた2♀を恵与頂き、兵庫県初記録と思って発表した。実際は山本先生のものが一番古い記録である (高橋, 1995)。両地点とも近い距離であり、恐らくこのあたりにはいるのだらうと思うが、記録はそれだけである (田淵山の標本は、兵庫県立人と自然の博物館に保管)。他の地域での記録を見ても、灯火に飛来したものが多く採集されている。したがって、養父郡下で夜間採集をやり注意すれば、採集できると考えている。

以上のことをまとめた後に、林靖彦氏から "KASUGA" No. 11, 1995 (大阪甲虫同好会連絡誌) の恵送に与った。その中に多紀郡篠山町雨石山で本種が3 exs. (26-VII-1989) 採集されている記録があった。このあたりに本種がいることに大いに喜んでいる。

ここで四国の状況について眺めてみる。

四国での記録は、澤田 (1953) の報告の前に、宮武・小林 (1950) による面河溪、皿ヶ嶺の記録、石原ほか (1953) による面河溪の記録、三宅ほか (1958) による剣山祖谷谷、剣山夫婦池、剣山コトリ川、名西郡神領村大谷、名西郡上分上山村雲早山、那賀郡石立山土佐県境など、多くの地点での記録がある。坂口 (1989) も愛媛県大滝山、愛媛県雲辺寺を記録している。

矢野 (1961) は、1960年までにわかった記録地点を示して、上記の地点以外に高知県土佐郡大川村、曉霞村、松葉川村、馬路村、甚吉森、大橋を示した。

四国では、本種はそれほど珍しいものではないように思われる。

中国地方各県からはこの種の記録を見つげだせなかった。そして九州へと移る。

九州では、英彦山で6、7月に多からずとして記録が発表され (神谷, 1959)、同じ英彦山の近くの障子岳でも記録された (松田, 1963)。

大塚 (1961) は、熊本県人吉市宝来町で灯火に飛来したものとして記録した時、九州での確実な産地は英彦山だけであり、この記録が2番目であることを示唆している。

九州での記録は上記以外ほとんど見られない。九州には同属のヒゴシマビロウドコガネ *G. hignon* (Lewis, 1895) が分布しており、コヒゲシマビロウドコガネの方は産地が限定されているのかもしれない。

全般的に見た場合、本州ではかなり北の方にも分布しており、特に多くいると考えられる地域は愛知県、三重県、奈良県あたりで、岐阜県、福井県もやや多いようである。

中国地方では全く記録が見られない。恐らく分布していると思われるが、どういう状況であろうか。兵庫県でももっと産地が見つかるような気がする。但馬地方の方々に頑張ってほしい。九州もかなり限定された分布のようである。全国的に眺めた場合、あまり普通に見られるコガネムシとはいいがたい気がする。

参考文献

- Arrow, G. J. (1912) Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Descriptions of a few new Species. *Ann. Mag. Nat. Hist.* 8, xii:394-408.
- 馬場金太郎 (1972) 新潟北部、胎内川流域の鞘翅目。飯豊山塊、胎内溪谷の生物:195-240.
- Brenske, E. (1897) Die Serica-Arten der Erde. A. Palaartische Region. *Berl. Ent. Zeit. BD. XLII* :345-349.
- 長谷川道明ほか (1989) 旧徳山村地域の甲虫類。旧徳山村地域動植物調査報告書:55-107.
- 平野幸彦 (1981) 神奈川県甲虫。神奈川県昆虫調査報告書:233-372.
- 平沢伴明 (1986) 長野県の食葉コガネの記録Ⅱ。まつむし (72):24-26.
- 伊賀正汎 (1955) 原色日本昆虫図鑑 甲虫編 増補改訂版。(保育社、大阪)。
- 石原 保ほか (1953) 石鎚山と面河溪の昆虫相。四国昆虫学会会報 Vol. 3, Suppl. p. 1-137.
- Lewis, G. (1895) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan, and Notices of others. *Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 6, Vol. XVI* :374-408.
- 神谷寛之 (1959) 英彦山昆虫目録Ⅱ。鞘翅目。(九州大学英彦山生物学研究所刊)
- 加藤正世 (1935) 主要金亀子科の分類。昆虫界 3(14):108-117.

的場 績 (1994) 和歌山県産甲虫類既報の整理.
KINOKUNI (46):41.
松田勝毅 (1963) 障子岳と深倉峽の鞘翅目目録 I. 北九州の昆虫 Vol. 10.
松野更一・伴 憲隆・穂積俊文 (1990) 愛知県のコガネムシ類. 愛知県の昆虫 (上): 339-361.
三輪勇四郎・中條道夫 (1939) 日本産鞘翅目分類目録. Pars. 5 金龜子科. (野田書房, 台北).
三宅義一ほか (1958) 徳島県のこがねむし類. 昆虫科学 (7): 3-33.
宮武睦夫・小林 尚 (1950) 石鎚山系の甲虫類 (第一報). 宝塚昆虫館報 (73): 1-20.
中根猛彦・馬場金太郎 (1960) 新潟県産の金龜子虫類. 市立長岡科学博物館館報 (4): 1-9.
新島善直・木下栄次郎 (1923) こがねむしニ関スル研究報告 (第二) 我国ニ産スルこがねむし及其分布. 北海道帝国大学農学部演習林研究報告 Vol. 2: 1-253, 7pls.
野村 鎮 (1963) 原色昆虫大図鑑 II (甲虫編). (北隆館, 東京).
野村 鎮 (1973) 日本産ピロウドコガネ族について. 桐朋学報 (23): 120-152.
大平仁夫 (1979) 鳳来寺山の甲虫類. 鳳来寺自然と文化: 74-79.
大塚 勲 (1961) 熊本県産コガネムシ類目録 (2). 北九州の昆虫 8(3): 87-92, pl. 9.
坂口精一 (1989) 香川県産昆虫標本目録兼香川県産昆虫目録. (自刊).
佐々治寛之・斉藤昌弘 (1985) 甲虫目. 福井県昆虫目

録: 79-245.
澤田玄正 (1937) 日本産シマピロウドコガネ属に就て. 日本の甲虫 1(2): 97-102.
澤田玄正 (1953) コヒゲシマピロウドに就い. げんせい 2(1/2): 27-28.
多比良嘉晃 (1989) 静岡県産コガネムシ仮目録. 静岡の甲虫 7(1/2): 27-31.
高羽正治 (1992) 石川県産甲虫類初出文献一覧表. 石川むしの会特別研究報告, 第 6 号.
高橋寿郎 (1977) コヒゲシマピロウドコガネ大屋町田淵山に産す. きべりはむし 5(1/2): 14.
高橋寿郎 (1995) 但馬地方の昆虫相に関する文献. IRATSUME (19): 59.
山本雅則 (1979) 伯母子岳とその周辺の甲虫. Sakaiensis 16(2): 128-184.
山本茂信 (1962) 妙見山資料館奉納妙見山昆虫採集目録 (1962・5・3).
山下善平ほか (1963) 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書.
山下善平ほか (1968) 平倉演習林の昆虫目録. 三重大学農学部演習林資料 No. 1: 1-94.
山下善平ほか (1972) 大杉谷および大台ヶ原山の昆虫相ならびに樹上クモ類相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書: 195-285.
山下善平ほか (1975) 父ヶ谷地域の昆虫相. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書: 231-326.
矢野俊郎 (1961) 四国産既知甲虫類目録 III. (多食亜目 II). 松山昆虫同好会時報 (16): 1-20.

但馬むしの会の年会費は3,000円です。
会費未納の会員は速やかにお支払いください。
また、本誌に寄稿された方は、原稿掲載料として1,000円をお支払いください。
21号に向けて、カンバも募ります。
郵便振替は、01120-3-16245、但馬むしの会、です。